平成２８年度　日本／ユネスコ パートナーシップ事業

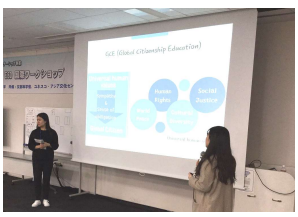
日韓中 ESD-GAP 推進国際ワークショップ報告

― 大阪（関西）ユネスコスクールネットワーク―

１．事業の実績

（１）事業実施日程

実施時期	実施事項	摘要
2016 年		教員研修内容
6 月 29 日(水) 7 月 16 日(土) 7 月 23 日(土) 9 月 15 日(水) 10 月 14 日(金) 11 月 04 日(金) 11 月 18 日(金) 12 月 08 日(木)	（企画会議） 大阪 ASPnet 加盟校（小・中・高・大学）の企画委員の先生方（ｽｸｰﾙｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ）及び大学生代表による企画会議。 **教員**が「生徒の学びの場に臨場し、ASPnet としての ESD 国際学習を具体的に実践する力を養う」企画にする会議を実施。	教員及び大学生 16 名の企画会議
10 月 23 日（日）	**第１回セミナー**： ・(テーマ) ESD って何？・ASPnet ってどんな学校？ ASPnet や ESD の基本概念、考え方について学習するセミナーを実施。ある程度、学校で学んできているが、学校によって異なる視点があるからこそ学び合う場を設定。	参加： 教員・管理職 42 名、 児童・生徒 75 名、 大学生 8 名 ■理科、社会、国際理解、保健体育、国語など、先生方のそれぞれの専門からの ESD を共通概念で統合。
11 月 6 日（日）	**第２回セミナー**： ・（テーマ）ESD - 先輩たちの学びの軌跡 - ASPnet 加盟校を卒業した大学生が、自分たちの高校時代の学びと大学での活動を紹介。高校生たちが若者としての役割を自覚する「ESD 先輩セミナー」を実施。 ・（テーマ）各学校の ESD の課題についてﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 生徒が学校や地域にある持続可能性を阻害する様々な課題を出し合い、共通する課題や考えを共有し、課題発見力を開発するセミナーを実施。 大学生の紹介風景 	参加： 教員・管理職 32 名 児童・生徒 75 名 大学生 15 名 ■高校生までの ESD の学びが、大学生になってそれぞれの専門領域でどのように生かされているかを、参加された先生方に理解していただく。 ■①新着任の先生や新しく ESD に関わる先生に、生徒の課題発見力や学校を超えた学び合う力の可能性を実感していただく。
11 月 27 日（日）	**第３回セミナー**： ・(テーマ)持続可能性を阻害する課題の共通性を考える／係活動	■②新着任の先生や新しく ESD に関わる先生に、ディベートではなく共創的ディス

	持続可能性の課題の底流に流れる問題・考え方は何かをディスカッションをしながら探る。この過程を経ることで、個々の課題が原因と結果、そして原因と原因の連関に気づいていく。GAP の原則に従う展開を経験する。これは小中高校生の異学年が一つのグループを構成して行う。	カッションによる知のインテグレーション過程を実感していただく。 ■③持続可能性を考えるアプローチが異なってもその根源になる人の尊厳とよき環境に至ることを学ぶ
12 月 11 日(日)	**第４回セミナー**： ・(テーマ) 一人ひとりが ESD のプレゼンターとして役割を担う 韓国・中国からの小中高校生を迎えて「私たちの ESD」をどのように伝えあうか（学びあうか）を話し合うセミナーを実施。また、司会、プレゼン、運営、PC 機械、工房などの係りに分かれて、ESD の学びあいを、ESD 的に運営するための実践的な方法を話し合う。	参加： 教員・管理職 35 名 児童・生徒 75 名 大学生 15 名 （試験期間中でやや少なめ） ■④ESD の学習成果を児童生徒同士で伝えあう。先生方に内容的コミュニケーション力の重要性を知っていただく。「どのように」から「何を」に重点を置くことで先生方も真剣になる。
12 月 22 日（木）	**「グローバル・シチズンシップ教育」講演会** Yu Cheol 氏（APCEIU）を招いた講演会 12 ユ・チュル氏は UNESCO ASPnet 60 周年記念国際会議(2013 年, 韓国・水原)において共同宣言の起草委員を務められ、ｲﾝｸﾙｰｼﾞﾌ教育やｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ教育の内容などについて検討された。	参加： 教員・管理職・他高校生・大学生含 61 名。 ■韓国 APCEIU から YU 氏を招いて ESD と GCE の関係並びに ASPnet としてのかかわりについて研修を行った。
12 月 23 日（金） ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 1 日目	**日韓中 ESD-GAP 推進国際ワークショップ** ① 韓国・中国の ASPnet 校、及び大阪ﾕﾈｽｺｽｸｰﾙﾈｯﾄﾜｰｸ合同ﾁｰﾑから、持続可能性を阻害する課題をプレゼンし、異なる国や文化の中での持続可能性の課題を共有し、国際的な教育活動の成果を学び合った。 ② 国を超えた課題から共通課題などをグループで考えるﾜｰｸｼｮｯﾌﾟを行った。  （左上）日本小中高校 （右上）中国小中学生 （左下）韓国高校生	参加者 教員・管理職・教育委員会・一般参加・小中高校生・大学生が 2 日間でのべ 308 名の参加があった。 ■参加した教員・教育行政の担当者には、持続可能性が国際的に取り組まれている課題であることを、現実感をもって理解していただく機会とした。また、その持続可能性の課題が各国の学校教育の中でどのように取り組まれているか、という教育の国際化の観点から連帯感を養うことをねらいとした。

12 月 24 日（土） ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 2 日目	**日韓中 ESD-GAP 推進国際ワークショップ** 前日の「考え」を踏まえて、日常生活を通して持続可能な社会のために個々がどうあるべきかを考え、それを「創作ダンス」の表現にして伝えあった。 なお、この創作ダンスは ESD への自己表現として一部学校では保健体育の授業への適用が検討されている。 **Wavin'Flag(ケイナーン) の曲に乗せて ESD の考えを表現します。＜ソマリアでの内戦により移民となった彼は NY を経て,カナダを拠点に活躍中＞**	■教員には 3 カ国の児童生徒がどのように考えを共有し、かつ共通の問題を探し当てるかのプロセスに臨場していただく。これによって、生徒の学び合う力の可能性を知る。 ■上記のプロセスの成果を基に、先生方には、児童生徒が地域や友人に、また大人に向けて「持続可能性を意識した行動や振る舞い」を創作ダンスで伝える影響を知っていただく。

（２）事業の実績の説明

【意図・実施】

今次の「ESD セミナー」及び「日韓中 ESD-GAP 推進国際ワークショップ」は、児童生徒が ESD を学校や地域で学びあうだけでなく、国を超えて学びあいながら自己の成長と共に連帯していく場を設け、ここに教員が臨場して教員自身の実践意欲と実践力を高めていくものとして企画された。

また、このような研修としてのプログラムに相応しく、「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム」の観点から、韓国・中国の先生方と「協同」でプログラムが検討され、相互の国際的な実践力につながるものとして意図された。

一方、その具体的な内容と展開は、児童・生徒が 4 回の「ESD セミナー」を通して学校や年齢の異なる子どもたち同士が「若者世代」として交流しながら学べるように計画されている（異なる多様な人との関係性）。同時に、児童生徒が自分の身近なところから持続可能性の問題を考え、学んだり発見したりしながら人がつながっていけるような関係づくりを目指す内容で構成された（ESD の内容的多様性）。特に、持続可能な開発目標へ向けた ESD の実践として、先の二つの多様性（多様な人との関係性、内容的多様性）の中で、ESD の課題と未来に向けたメッセージを共有し、この成果を児童・生徒たちは創作ダンスで考えを表現できるよう構成した。教員は、生徒自身が成長し、かつ国際的なつながりを築いて行くプロセスに臨場することで実践力を深めた。

【２】今次の ESD セミナー（前４回）と国際ワークショップの参加校は次の通りである

韓国　Juseong High-school（清州市）

中国　北京市中関村第一小学校　中国人民大学付属中学校（北京市）

大阪　大阪市立晴明丘小学校　大阪市立横堤小学校　箕面こどもの森学園(小学生)　京田辺シュタイナー学校　コリア国際学園　明浄学院高校　大阪教育大学附属高校池田校舎　大阪府立北淀高校 大阪府立佐野高校 大阪府立住吉高校 大阪府立泉北高校 大阪府立富田林高校 大阪府立長野高校 大阪府立西淀川高校 大阪府立松原高校　奈良県立五條高校　奈良県立法隆寺国際高校

【３】参加者数　上記「実施事項」の「摘要」欄に各回ごとに記した。

【４】参加した学校の教員の（研修成果としての）学びの声(抜粋)

■　アンケート結果（全体評価）は次の結果であった。
①非常に勉強になった：約 59%
②全体として勉強になった：約 32%
③どちらとも言えない：約 5%
④全体として学びや発見はなかった：0%
⑤内容に問題がある。0%　※コメントのみ 4%

■　今回は、他の先生方や大学生の動き・気配り・仕事を見せて頂いて、いろいろなことを学びました。名簿作り、児童生徒の活動を見る視点、ESD ワークショップの進め方、ゲストの迎え方・送り方など、まだまだ自分ができていないこと、やっていないことに気づきました。
　また、ESD ワークショップは、最後のゴールまでプログラムされたものに児童生徒を当てはめて教えていくものではなく、参加者の到達度や行動様式をよく観察し、判断しながら一歩一歩進めて参加者自身の気付きを促し、その成果を称賛しシェアすることでまたさらに一歩進んでいく、という地味ながら優れた観察力と判断力、臨機応変に対応できる進行に、ESD の引き出しの多さと豊かさがあることを改めて感じました。その上で、今後どうすればもっとうまく準備が進むのか、児童生徒によりよく ESD や GCE を実践していくにはどんな工夫をすればよいかをもっと考えていきたいと思いました。

■　今回終わった直後の感想は、「やっと最初の一歩を踏み出せた」感じです。だから、せっかく今回参加してくれたメンバーを大切にしなければ、と思います。初心者だからこそ、継続が大切だと思います。もう一つ、各校での普段の学びがとても大切だと思いました。教科領域の中で ESD を学ぶことと人権を学ぶことが子どもたちの土台を作るので、ネットワークに参加する一人一人が少しの気持ち、態度、知識から得た感覚を持ち寄ることで、さらに良い取り組みになると思います。

■　準備段階での学び合いの中で、生徒達は学校文化の違いに気付きながら、自分と同じように学びの交流に興味を示している生徒がたくさんいたことに驚いた。普段自分が考えていた、人としてのとるべき態度や振る舞いが、他の生徒との話し合いの中で普遍のものであることが確認できていた。また、自分の気付いていない身近な問題をディスカッションの中で明確化して、新しい視点を獲得し、視野を広げたことが振り返りから読み取れた。日中韓の交流本番でも気付きや発想が次の気付きにつながる連鎖が見られ、大いに刺激を受けた。ただ、準備セミナーで、一部の人が難しくてついていけない場面も見られたので、参加児童生徒すべてが参加できるようにファシリテイトしていく配慮が必要であった。

■　生徒の背景となる文化の違いだけでなく、小中高校生に加え、大学生と教員が加わり、発達段階や世代の差があるからこそ学べることが多いこと。高校生が小学生や中学生の発想を基に、ダンスで何を表現するのかをさらに深めて考えている場面などは、同じ校種の集団では見ることができないと思った。

■ 多くの学びの場を設定でき、生徒達の学びも多く見ることができたことは成功であった。ダンスで持続可能な社会を表現する手法も 2 年目を迎えたが、言語でのコミュニケーションの壁を低くでき、楽しみながら取り組めることを再確認できた。